

最終更新日	2011年(平成23年)2月28日
-------	-------------------

校番 63	福山市立 明王台小 学校
-------	--------------

1 学校教育目標

自ら学び、豊かな心でたくましく生きる子どもの育成

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

夢を持ち、その夢を実現することを通して社会に貢献できる児童の育成

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

子ども、保護者、地域から信頼される学校づくり		
子どもの姿	教職員の姿	学校の姿
<b>よく学びよく遊ぶ子ども</b> ・自ら学び、自ら考える子 ・自他のよさに気づき、相手を尊重できる子 ・進んで体力を高める子	<b>夢と教育方針が熱く語れる教職員</b> ・教職に対する熱い情熱をもつ ・教育の専門家としての確かな力量を身につける ・組織的に動く(同じベクトルを向く)	<b>充実感が味わえる学校</b> ・学校に来るのが楽しい ・毎日安心して生活できる ・保護者・地域から支えられている

3 自校の現状分析

○**児童**…本校の特色である外国語活動・英語活動では、8年間のコミュニケーション力育成の取組みから自分の思いをもち、相手に伝える活動を楽しむ児童が育ってきている。また、全国・県実施の学習状況調査においても平均を上回ることができている。昨年度の取組みから意欲的に学習に取り組み、既習の知識を活用する力がついてきた。しかし、自分の考えを論理的に書くことや集団で学びを深めていくことには課題がある。また生活面では、全校取組みを通して自己肯定感や成就感が育っているが、適切な判断力や最後までやり切るといった面において課題がある。体力面では、全校的に課題であった立ち幅跳びに取り組み、ほぼ全国・県平均を上回ることができた。自己の目標を持ち体力づくりに取り組む態度が育ってきているので、更に継続していく。

○**学校**…創立14年目、保護者・地域の協力を得ながら、開かれた学校づくりを進めている。家庭連絡や通信による情報公開を進め、保護者との信頼関係を深めていくことが重要である。学校の教育方針を理解していただくよう更に情報を発信していく必要がある。

○**職員**…研究心・協働意識は高く目標の実現に向け努力している。特に英語活動の実践研究には誇りを持って指定事業に臨んでいる。また他教科の授業においても指導法の工夫・改善に取り組んでいる。組織的職務遂行を更に進めていくことが今後の課題である。

4 研究主題

(1) 研究主題

思考力・判断力・表現力を高める授業の創造  
 — 思いを伝え合う活動の工夫(外国語活動・英語活動) —  
 — 主体的に学び合う授業づくり(算数科) —

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
市	教育研究支援事業(国際理解教育)	2008年度(平成20年度)～ 2010年度(平成22年度)

5 今年度の重点目標と設定理由

重点目標	設定理由
○自ら考え、問題解決する児童を育成する。	習得した知識・技能を活用して自ら考え、思いを伝え合う活動を通して課題を解決していく力を育成するため。
○道徳的判断力を育成する。	生活場面で、善悪の判断を適切に行い、行動化できる児童を育成するため。
○たくましい体を育成する。	自ら体を鍛え、健やかに生活しようとする意欲や態度を身に付けさせるため。

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・ 自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み ◇成果と取組みに着目)	(最終) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○短期(中期)経営目標の達成状況 ◎ 改善方策																
確かな学力	2	思考力・判断力・表現力が高まった児童を90%以上にする。	★	継続	①解決の見通しを持って考え、それを根拠を明らかにして表現できる児童を育成する。	B	算数科において図・式・言葉を使って自分の考えをノートに書くことができる児童を80%以上にする。	b	□説明テストにおいて図・式・言葉すべての項目で通過できた児童は次の通りであった。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>6月</td> <td>10月</td> <td>1月</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>48.0%</td> <td>61.5%</td> <td>64.8%</td> </tr> </table> 通過率が上がったが、目標を達成できなかった。 ○算数科において思考力・判断力・表現力が高まった児童は、64.8%であった。特に筋道を立てて説明するなど表現力に課題があった。 ◎順序よく書くことや図や式を関連させて説明をかくことなど重点的に指導していく。		6月	10月	1月	達成率	48.0%	61.5%	64.8%								
						6月	10月	1月																	
達成率	48.0%	61.5%	64.8%																						
					②自分の思いを様々な方法で意欲的に伝え合うことができる児童を育成する。	A	外国語・英語活動で、言語・ジェスチャー・表情などを用いてお互いの思いを伝え合うことができる児童を86%以上にする。	a	□「思いを伝える」「思いに答える」についてのアンケート結果は次の通りであった。相手の思いに答える表現を具体的に指導することで、目標を達成することができた。 <table border="1"> <tr> <td>伝える</td> <td>6月</td> <td>10月</td> <td>1月</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>87.8%</td> <td>92.3%</td> <td>92.8%</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>答える</td> <td>6月</td> <td>10月</td> <td>1月</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>85.0%</td> <td>89.8%</td> <td>92.5%</td> </tr> </table> ○外国語・英語活動において思考力・判断力・表現力が高まった児童は、92.5%であった。 ◎朝のイングリッシュタイムやクラスルームイングリッシュで、さらに「思いに答える」表現に重点をおいて指導していく。	伝える	6月	10月	1月	達成率	87.8%	92.3%	92.8%	答える	6月	10月	1月	達成率	85.0%	89.8%	92.5%
伝える	6月	10月	1月																						
達成率	87.8%	92.3%	92.8%																						
答える	6月	10月	1月																						
達成率	85.0%	89.8%	92.5%																						
豊かな心	1	善悪の判断に基づいて行動できる児童を90%以上育成する。	★	新規	③道徳的判断力を身につけた児童を育成する。	B	無言掃除が時間いっぱいできる児童を80%以上にする。	b	□「時間いっぱいする」は、アンケートの結果次のとおりであった。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>6月</td> <td>10月</td> <td>1月</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>93%</td> <td>92%</td> <td>94%</td> </tr> </table> 「無言でする」は、アンケートの結果次のとおりであった。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>6月</td> <td>10月</td> <td>1月</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>/</td> <td>63%</td> <td>64%</td> </tr> </table> 「時間いっぱいする」は94%で達成できたが、「無言でする」は64%で達成できていない。 □道徳的判断力については、3つの観点でアンケートをとった。児		6月	10月	1月	達成率	93%	92%	94%		6月	10月	1月	達成率	/	63%	64%
	6月	10月	1月																						
達成率	93%	92%	94%																						
	6月	10月	1月																						
達成率	/	63%	64%																						



健やかな体	3	自ら体を鍛える児童を80%以上にする。	★ 継続	⑤目標を持って体力づくりができる児童を育成する。	B	体力・運動能力ステップアップカードを使って、自らの目標を設定し、その目標を達成した児童を80%以上にする。	<p>□自己目標の達成率は次のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="1507 124 1832 196"> <tr> <td></td> <td>9月</td> <td>12月</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>61.3%</td> <td>72.3%</td> </tr> </table> <p>全校種目では、70.7%。学年種目では、73.9%で、全体の達成率は、72.3%であった。</p> <p>○目標を持って体力づくりができる児童は、80.6%であった。</p> <p>◎来年度に向けた体力づくりは、授業では多様な運動を取り入れ運動量を確保したり、朝体育や外遊びの奨励をしたりして体力向上に取り組んでいく。</p>		9月	12月	達成率	61.3%	72.3%																		
	9月	12月																													
達成率	61.3%	72.3%																													
教職員 力量ある	3	すべての職員が思考力・判断力・表現力を高める授業力を身につける。	★ 継続	⑥自ら考える児童を育成する授業の工夫を行う。	A	<p>授業評価シートを実施し、肯定的評価を80%以上にする。</p> <p>理論研修（外国語・算数）を月1回計画的に実施する。</p>	<p>□4段階評定尺度法授業評価シートでは、外国語・英語活動の平均評価 3.5、算数科の平均評価 3.3 であった。全チェック項目の95%が肯定的評価となっており目標を達成した。</p> <p>□月に1回のペースで理論研修を100%実施できた。「学習指導要領解説算数編」「学習指導要領解説外国語活動編」「話し合い活動を創るポイント」などを全員で研修し、ポイントを報告し合った。</p> <p>○思考力・判断力・表現力を高める授業力を身につけた職員は、92.3%である。学び合いの場の工夫に課題があった。</p> <p>◎算数科では、相手を意識した説明ができるように、発表の仕方を重点的に指導し、集団解決を充実させていく。</p> <p>◎今後は、外国語・英語活動、算数科においては来年度の研究テーマであるコミュニケーション能力の育成に関する理論研修を行っていく。</p>																								
信頼される学校 市民かい	1	各自の分掌を主体的に推進できる職員を90%以上にする。	新規	⑦各分掌をPDCAサイクルで実施する。	A	△各部のタイムテーブルに沿って、自分の分担を遂行できた職員を80%以上にする。	<p>□各学期のアンケート調査の結果は次の表の通りであった。</p> <table border="1" data-bbox="1489 898 2134 1114"> <thead> <tr> <th>4段階評価</th> <th>6月(人)</th> <th>10月(人)</th> <th>1月(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>達成率(%)</td> <td>87.5%</td> <td>85.7%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>自己評価の低かった2名に対して個人指導や助言を行った結果、校務分掌もきちんと果たすことが出来始め自己肯定感が向上した。</p> <p>○各自の分掌をPDCAサイクルで推進できたと自己評価できた職員は100%であった。</p> <p>◎来年度もタイムテーブルの活用や個人指導を継続していく。</p>	4段階評価	6月(人)	10月(人)	1月(人)	4	4	2	6	3	10	10	10	2	2	2	0	1	0	0	0	達成率(%)	87.5%	85.7%	100%
4段階評価	6月(人)	10月(人)	1月(人)																												
4	4	2	6																												
3	10	10	10																												
2	2	2	0																												
1	0	0	0																												
達成率(%)	87.5%	85.7%	100%																												

3	保護者の肯定的評価を 90%以上にする。	継続	⑧学級懇談等を通して、学校の様子を保護者に知らせ、開かれた学校づくりを進める。	B	△保護者への連絡を、月1回実施できた職員を95%以上にする。	a	<p>□保護者連絡に関するアンケート調査の結果は次の表の通りであった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>4段階評価</th> <th>6月(人)</th> <th>9月(人)</th> <th>1月(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4(100%)</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>3(80%)</td> <td>8</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2(60%)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1(40%)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>平均実施率(%)</td> <td>88.6%</td> <td>94.3%</td> <td>98.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>月1回の保護者連絡ができていない職員は、徐々に増え最終的には98.6%の実施率であった。</p>	4段階評価	6月(人)	9月(人)	1月(人)	4(100%)	6	10	13	3(80%)	8	4	1	2(60%)	0	0	0	1(40%)	0	0	0	平均実施率(%)	88.6%	94.3%	98.6%
					4段階評価	6月(人)	9月(人)	1月(人)																							
4(100%)	6	10	13																												
3(80%)	8	4	1																												
2(60%)	0	0	0																												
1(40%)	0	0	0																												
平均実施率(%)	88.6%	94.3%	98.6%																												
△保護者アンケートで、90%以上の肯定的評価を得る。	b	<p>□保護者アンケートの結果は次の表の通りである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>4段階評価</th> <th>6月(%)</th> <th>9月(%)</th> <th>1月(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>39</td> <td>36</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>51</td> <td>51</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>肯定的評価(%)</td> <td>87</td> <td>87</td> <td>87</td> </tr> </tbody> </table> <p>○アンケートで「学校の様子がよく分かる」と肯定的評価をした保護者は87%であった。</p> <p>◎否定的評価が20%を超えている学級や10月よりもアンケート結果が下がった学級については、学級通信の発行回数や家庭への連絡回数を増やすなどの取り組みを強化していく。</p>	4段階評価	6月(%)	9月(%)	1月(%)	4	39	36	31	3	51	51	56	2	12	12	12	1	0	1	1	肯定的評価(%)	87	87	87					
4段階評価	6月(%)	9月(%)	1月(%)																												
4	39	36	31																												
3	51	51	56																												
2	12	12	12																												
1	0	1	1																												
肯定的評価(%)	87	87	87																												